

# だんだん

第64号  
平成29年12月号

発行  
相生市教育委員会  
相生市人権教育研究協議会

## 人権文化をすすめよう！ 人権週間 十二月四日～十日

### 「人権文化」とは

日常生活の中で、お互いの人権を尊重することを、自然に感じたり、考えたりの行動することが「当たり前」になった生活をいいます。

### 「友だちへの思いやり」

二年生になって、クラスの友だちが二人けがをしました。どちらも、にもつをはこぶのが大へんそうので、クラスのみんなも心ばいして声をかけていました。ほくも、「にもつをもってあげるよ。」と言うと、どちらも「うん。よろしくね。」



と言ってくれたので、うれしい気持ちになりました。

こまっている友だちをたすけると、ほくの心もあたたかくなるんだなとはっ見しました。

これからも、こまっている友だちがいたら、自分から声をかけて、あたたかい思いやりの気持ちで、みんなにつながっていくようにしたいと思います。

(小学2年生)

### 「かぎ」

Aさんとちややまち公園であそびました。あそんでいるとAさんがかぎを見つけてました。



わたしたちは、こうばんにとどけることにしました。

こうばんに入る前は、きんちようしました。でも、おまわりさんがとてもやさしかったので、あんしんしました。せつめいするのがむずかしかったけど、ふたりできょうりよくしてつたえました。おまわりさんは、さいごに

「おてがらでした。」  
といてくれました。とどけてよかったなと思いました。

Aさんがいてくれたので、できました。わたしは、ずっとAさんとともだちでいたいと思いました。



## 「いたかったけどうれしかった」

一学期、クラスのたん生（じょう）日（び）会（かい）で、ぼくは、ビンゴ大会（たいかい）のし会（かい）を（か）して（い）ました。りょう手（て）にビンゴの番（ばん）号（ごう）カ（か）ー（か）ド（ど）が（は）い（い）る（い）入（い）れ（れ）物（も）を（も）持（も）っ（つ）て（て）い（い）て（て）、しつ問（もん）が（あ）っ（つ）た（た）の（の）で（で）行（い）こ（こ）う（う）と（と）し（し）た（た）ら（ら）、何（なに）か（か）に（に）つ（つ）ま（ま）づ（づ）い（い）て（て）つ（つ）く（く）え（え）で（で）強（つよ）く（く）



お（お）で（で）こ（こ）を（を）う（う）っ（つ）て（て）こ（こ）ろ（ろ）ん（ん）で（で）し（し）ま（ま）い（い）ま（ま）した（た）。ぼ（ぼ）く（く）は（は）、い（い）た（た）く（く）て（て）い（い）た（た）く（く）て（て）立（た）ち（ち）上（あ）が（が）れ（れ）ま（ま）せ（せ）ん（ん）で（で）し（し）た（た）。

その時（とき）す（す）べ（べ）に（に）、と（と）び（び）ち（ち）っ（つ）た（た）カ（カ）ー（か）ー（か）ド（ど）を（を）ひ（ひ）ろ（ろ）っ（つ）て（て）く（く）れ（れ）た（た）子（こ）や（や）、

「だいじょうぶ。」

と、声（こゑ）を（を）か（か）け（け）て（て）く（く）れ（れ）た（た）子（こ）が（が）い（い）ま（ま）した（た）。ま（ま）た（た）、ほ（ほ）か（か）の（の）友（とも）だ（だ）ち（ち）は（は）か（か）た（た）を（を）か（か）し（し）て（て）く（く）れ（れ）て（て）、ほ（ほ）け（け）ん（ん）室（しつ）ま（ま）ま（ま）で（で）つ（つ）れ（れ）て（て）い（い）っ（つ）て（て）く（く）れ（れ）ま（ま）した（た）。

次（つぎ）の（の）日（ひ）、学（がく）校（こう）に（に）行（い）っ（つ）た（た）時（とき）に（に）も（も）、

「う（う）っ（つ）た（た）と（と）こ（こ）ろ（ろ）だ（だ）い（い）じ（じ）ょう（じょう）ぶ（ぶ）。」

と、声（こゑ）を（を）か（か）け（け）に（に）き（き）て（て）く（く）れ（れ）た（た）子（こ）が（が）い（い）ま（ま）した（た）。「あ（あ）と（と）は（は）の（の）こ（こ）っ（つ）て（て）い（い）る（る）け（け）ど（ど）、だ（だ）い（い）じ（じ）ょう（じょう）ぶ（ぶ）。」

と、言（い）い（い）ま（ま）した（た）。この作（さく）文（ぶん）を（を）書（か）い（い）て（て）い（い）て（て）、「あ（あ）り（り）が（が）と（と）う（う）。」と、助（たす）け（け）て（て）く（く）れ（れ）た（た）み（み）ん（ん）な（な）に（に）き（き）ち（ち）ん（ん）と（と）言（い）え（え）て（て）い（い）な（な）か（か）っ（つ）た（た）こ（こ）と（と）に（に）気（き）づ（づ）き（き）ま（ま）した（た）。心（しん）配（はい）し（し）て（て）く（く）れ（れ）て（て）、助（たす）け（け）て（て）く（く）れ（れ）て（て）、と（と）っ（つ）て（て）も（も）う（う）れ（れ）し（し）か（か）っ（つ）た（た）で（で）す（す）。

「あ（あ）り（り）が（が）と（と）う（う）。」

今（こん）ど（ど）は（は）、友（とも）だ（だ）ち（ち）が（が）け（け）が（が）を（を）し（し）た（た）時（とき）や（や）、困（こま）っ（つ）た（た）り（り）な（な）や（や）ん（ん）だ（だ）り（り）し（し）て（て）い（い）る（る）時（とき）は（は）、ぼ（ぼ）く（く）も（も）助（たす）け（け）て（て）あ（あ）げ（げ）て（て）、話（はなし）を（を）聞（き）い（い）て（て）あ（あ）げ（げ）ら（ら）れ（れ）る（る）よ（よ）う（う）に（に）な（な）り（り）た（た）い（い）と（と）思（おも）い（い）ま（ま）した（た）。

（小学3年生）

## 「大事ななだち」

ぼ（ぼ）く（く）は（は）、同（おな）じ（じ）学（がく）年（ねん）の（の）友（とも）だ（だ）ち（ち）が（が）休（やす）ん（ん）で（で）し（し）ま（ま）う（う）と（と）、悲（かな）しく（く）な（な）っ（つ）た（た）り（り）さ（さ）み（み）しく（く）な（な）っ（つ）た（た）り（り）し（し）ま（ま）す（す）。み（み）ん（ん）な（な）が（が）い（い）た（た）ほ（ほ）う（う）が（が）、な（な）ぜ（ぜ）か（か）安（あん）心（しん）し（し）ま（ま）す（す）。な（な）ぜ（ぜ）せ（せ）う（う）思（おも）っ（つ）の（の）で（で）し（し）ょう（じょう）か（か）。そ（そ）れ（れ）は（は）、み（み）ん（ん）な（な）の（の）「仲（な）か」と（と）思（おも）い（い）ま（ま）す（す）。

これまで五年間も  
いっしょに過ごして  
きました。みんなで

喜んだことも、悲し  
んだことも、楽し  
かったこともありま  
す。ぼくは、みんなの友情は永遠だと思  
います。



これからもいろいろな行事があります。

それで、どんどんみんなと関わっていきま  
す。みんなの友情が消えないようにした  
いです。

（小学5年生）

## 「最後のふれあいお店まつり」

今年（ことし）の（の）ふ（ふ）れ（れ）あ（あ）い（い）お（お）店（みせ）ま（ま）つ（つ）り（り）は（は）、去（き）年（ねん）ま（ま）で（で）  
とはちがうところが  
ありました。それは、  
自分が「最高学年」ということです。いつ  
もと違（ちが）う（う）プ（ぷ）レ（れ）ッ（っ）シャ（シャ）ー（ー）の（の）よ（よ）う（う）な（な）も（も）の（の）が（が）あ（あ）り（り）  
ました。一年生たち下級生をどのようにし  
たら喜ばせるかなどを「生けん命考え  
ながらお店を回っていると、自分が行きた

かったお店に行くことはできまでせんした。でも、それで自分の班の下級生は楽しそうな顔をしていました。だから、行きたかった気持ちがあったけど、それでよかったのかなと思いました。最高学年としてがんばれたふれあいお店まつりにできました。

(小学6年生)



## 「相手の気持ち」

僕は一人っ子という言葉が嫌いです。兄弟のいる子は、一緒にいろんな話をしたり、一緒に遊んだり楽しいだろうなと想像していたのでうらやましいと思っていました。でも、友だちには、「一人っ子でいいな、うらやましいな。」とよく言われます。そんな話をすると、母に言われたことがあります。

「自分に兄弟がいる子が一人っ子をうらやましいと思うのは、自分のいる環境とは違う方がよく見えてしまうから。でも、同じ立場になってみないと相手の気持ちはわからないから、相手の気持ちをよく考えないといけないよ。」

僕は、今まで、「人の気持ちも知らないくせに」と心の中で思っていました。僕も、相手を知らず知らずのうちに傷つけている言葉を言っていたのではないかと考えました。自分の考えだけで判断して、いいとわるいを決めてしまうのはよくないことだと思いました。

全く同じ立場にたつことは無理だけど、相手はどんなふうに思っているか相手の気持ちをよく考えて発言する思いやりが大切だと思います。同じ言葉を言われても人それぞれ感じ方がちがうので、自分の言葉にはちゃんと責任をもちたいです。

そして、自分が何か言われて嫌なときは、相手に自分の気持ちも伝えていきたいです。そう



すること、お互いを理解し合ってよい関係を保つことができると思います。相手の立場にたつて相手の気持ちを考えること、自分の気持ちを相手に伝えるということを意識して生活していきたいです。

(中学2年生)

## 「働く社会とは」

僕は高校生になり、初めて「働く」ということを学びました。僕がやっている仕事は、言葉遣いや礼儀が必要なお仕事です。特に正しい言葉遣いを心がけています。社会に出ると礼儀が大切であることが、改めてわかることができました。



ある日、アルバイト先の先輩が、お客さんを怒らせてしまったことがあります。その時、僕は、お客さんの方が悪いと思っていたので、少しお客さんに対して腹立たしく感じていました。しかし、先輩

は謝っていました。その時は、先輩の心遣いを感じました。社会に出るということは、こういうことが必要であると感じた瞬間でした。そのあと、先輩は同じことを繰り返し返さないように気を付けて働いていました。失敗した経験を生かして、失敗した経験を生かして、そこから学ぶことも大切であると、その先輩を見ていて学びました。

学校では、野球部に所属していて、顧問の先生からは特にあいさつについて指導してもらっています。仕事と部活では共通する部分があるので、将来社会に出た時に、しっかり対応できるおとなになるため、これからも礼儀や心遣いを意識してがんばっていききたいです。

(高校1年生)

## 「インターシンプで学んだこと」

10月16日～20日の5日間インターシンプがありました。私は、あいおい白龍城に行きました。

仕事内容は、朝は開店の準備、夕方は閉店準備で商品並べ、その他にレジ打ちもさせていただきました。私はレジを使うのは初めてだったので、使い方がわからず困っていましたが、従業員の方が丁寧に教えてくださり、「失敗しても次は成功するから大丈夫よ。」と優しい言葉をかけていただきました。

お客さんの中にも「風邪ひかないようにね」や「頑張ってるね」などの声をかけてくださる人がおり、とても嬉しかったです。実際に働いてみて、仕事の内容や大変さを学ぶことができたのはもちろんですが、お客様と接したり、社員の皆様と一緒に働いたりする中で、人と人との関わりの大切さを改めて学ぶことができたことが、私にとって一番大きく心に残りました。

(高校2年生)



## 「人権ふれ愛シネマ」

本年度は「西播磨人権のつどい」の第2部として開催いたします。

日時 12月16日(土) 14時20分開演

会場 扶桑電通なぎさホール

(相生市文化会館 大ホール)

内容 「ひまわりと子犬の7日間」

命の期間は7日間。

ぼくたちは奇跡を起こす。

ただ、愛の力だけでー

入場無料

平成29年度人権ポスター特選作品を会場入口に展示します。

## 家庭対話ウィーク

12月4日(月)～10日(日)



心と心を受けとめ合う会話、肌と肌で感じるぬくもりのあるふれあい。安心して、お互いの気持ちを話し合う場所が家庭です。話をゆっくりと聞き合う機会が少なくなってきたと言われます。家庭は人権文化の最前線とも言われます。あたたかい家族の関係をみんな育てていきたいですね。

